

地元愛たっぷり！「全市区町村」深掘りガイドの第二弾が遂に登場！

『るるぶ まちという 神奈川』 3月14日(金)発売

FMヨコハマとのコラボ Podcast も配信スタート！

JTBグループで旅行・ライフスタイル情報を提供する株式会社JTBパブリッシング（東京都江東区、代表取締役 社長執行役員：盛崎宏行）は、神奈川県すべての市区町村のおでかけ情報をガイドする『るるぶ まちという 神奈川』を2025年3月14日（金）に発売いたします。



■500 ページ超！全 33 市町村を徹底ガイド

「まちという」シリーズは2024年7月に創刊。シリーズ名の意味は「まち」×「十人十色」（それぞれに違うこと）。その名の通り、神奈川県全市区町村すべての「まち」の魅力や自慢にスポットを当て、知りたくなる&行きたくなる情報たっぷり、500 ページを超す神奈川のファンブックです。

中を開けば、神奈川県 33 市町村・横浜市 18 区・川崎市 7 区・相模原市 3 区、すべてのまちごとに、まずは知ってほしい、一番おすすめの情報を特集しているほか、みどころ・グルメ・ショップ・イベントなどなど、徹底してよりすぐった施設を多数掲載しました。まさに、神奈川の大事典となっています。

開港以来の染染技術を今に伝える住宅都市

●よまほし こうなんく

港南区

横浜市 港南区の自慢 BEST 3



江戸時代はどかな農村だったが、横浜開港を機に産業化が進んだ。なかでも醸造業は、大岡川の水に恵まれて地場産業として栄えた。昭和30年代になると野庭団地や港南台住宅団地など大規模の宅地開発が次々に行われ、首都圏のベッドタウンとして発展。団地の広がりには商業施設がで、ストラスプール(〒113)や港南台タネヤ(〒113)のような地元意識で住民から深く愛される店も生まれた。商業の中核をなす市有数のターミナル、上大岡では昭和末期に駅前開発が開始し、現在も進行中だ。

再開発が進む 横浜の副都心・上大岡

上大岡駅には1996年に京急百貨店、2003年にみさお、2010年にミカが併発。現在の(2)地区の再開発計画も動き出している。また駅前周辺は地島島が充実したエリアとしても知られる。(P152)

憩いのオアシス 久良岐公園

芝生広場や大池、約90本の樹木などがあり、放牧にロケスポットにとさまざまな楽しみを、横浜市電1156号の車体展示も。(P152)

港南区生まれの「濱文様」

型を使って染料を生地地に刺し込み、蒸して色を固めさせ、水洗いして仕上げる横浜染。その技術を伝承するデザイナーブランド「濱文様」を手がける企業がある。(P151)

MAP 別冊P151

150

遊び心あふれるデザインがいっぱい

まずは知りたい! 港南区の自慢

横浜染染の伝統を受け継ぐ「濱文様」



開港以来、横浜ならではの地場産業として発展を遂げた横浜染。デザイナーブランド「濱文様」には技術が詰め込まれている。

国内外の技術の粋を集めた 横浜染

横浜染とは、型を使って色を染める染技法。繊細な絵柄や深い色味を表現でき、色落ちが少ないという特徴がある。江戸時代末期に開港してシルクの産地となった横浜では、それまで洋装などを制作していた木履技術者が集まり、海外の知識も取り入れながら高度な染技法を確立していった。世界的なスカーフブームを背景に横浜染は隆盛を極め、昭和30～40年代には市内に100を超える染工場があった。ところがその後は貿易不振や流行の変化などにより産業が縮小。現在は横浜染の技術を受け継ぐのはわずかに数社となっている。

伝統が息づく「濱文様」は 洗練されたデザインに人気

昭和23年(1948)に染工場として上大岡で創業した株式会社イヌも、市販に入る前は業種不問にあてていた。社長を打倒するためにスタートしたのが自社ブランド「濱文様」の開発だった。社員たちが自由にデザインしてあげていよう品を商品化したところ、古めかしい独自の染柄が人の心をつかみ取った。コラボレーションで001に認定されるなど横浜みよりの定評も受け継がれている。

MAP 別冊P151

151

四季折々の彩りにあふれた公園

格式高い能舞台も

久良岐公園

久良岐公園は港南区と磯子区にまたがる23市町最大の公園。約300本の桜や、ホタルが息づく上大岡池など見どころ豊富だ。散地や自然観察も楽しめる。風情漂う能舞台は大正時代に日比谷に建てられ、昭和40年(1965)に能楽愛好家の寄贈資財によってここに移築された。舞台の側面は日本建築の装飾、平屋風の窓に見える。風情漂う能舞台は大正時代に日比谷に建てられ、昭和40年(1965)に能楽愛好家の寄贈資財によってここに移築された。舞台の側面は日本建築の装飾、平屋風の窓に見える。風情漂う能舞台は大正時代に日比谷に建てられ、昭和40年(1965)に能楽愛好家の寄贈資財によってここに移築された。舞台の側面は日本建築の装飾、平屋風の窓に見える。

ステージ発表やワークショップ、屋台も充実の年間恒例イベント

ひまわりフェスタ

【ひまわりフェスタ】は10・11月に港南区最大規模で開催されるイベントの総称で、区内最大級の催し。メインイベント「こうなん子どもゆめワールド」は50以上の屋台・出店がずらりと並び、ステージでは子どもたちのパフォーマンスが繰り広げられ、大変な賑わいを見せる。また同時開催される横浜刑務所の「横浜矯正展」では刑務所作業製品の販売や施設見学を実施しており、こちらも大人気だ。

MAP 別冊P151

152

管原道真ゆかりの神社で

心静かに祈る

日本三軒 永谷天満宮

学問の神様である菅原道真を祀る神社。受験シーズンになると遠方からも多くの受験生が合格祈願に訪れる。「日本三軒」とは、道真が自身の姿を映して手彫りした三体の木像のこと。関東と南下して居を構えた五男・淳茂がそのうちの一体を受け継ぎ、熱心な祈願をしたことが永谷天満宮のはじまりとされる。ご神体の木像は12年に一度、丑年にだけ行われる「丑年大祭」で一般に向けて御開帳される。

旧の映画文化を守る 地域密着型のミニシアター 港南台シネサロン

「映画館を作りたい」という周辺住民の熱望を受けて昭和62年(1987)に開業。全国的に小規模の映画館が減少する現在も「旧の映画館」として奮闘を続ける。アンケート箱を設置して作品選定に生かすなど、観客に寄り添った運営が長年愛される理由だろう。2023年に最新式プロジェクトを導入し、より鮮明な映映を楽しむようになった。

MAP 別冊P151

153

神奈川県 横浜市 港南区

神奈川県 横浜市 港南区

【とことん大賞】の賞品は港南区の産物、いわねです。産品も様子が揃っています。(P150)

港南台駅近くの「ひまわり」は一人でも家族でも利用しやすい、気軽に遊べるミニシアター。イベントや特別上映も開催中。店内にはスイーツの風味(?)のドリンクやアメトピアグッズも揃っています。(P150)

多彩な文化が息づく軍港の街 横須賀市

2025年10月1日発行 | 10月1日発行 | 10月1日発行

3 横須賀市
歴史・文化・観光

1875年(明治8)
幕府が横須賀に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が横須賀に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が横須賀に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が横須賀に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

激動の幕末から明治まで 軍港のまちの 史跡巡り

2025年10月1日発行 | 10月1日発行 | 10月1日発行

1853年(嘉永6)
黒船の来航。幕府は開港を認め、横須賀に開港場を設けた。1853年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1853年(嘉永6)
黒船の来航。幕府は開港を認め、横須賀に開港場を設けた。1853年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1853年(嘉永6)
黒船の来航。幕府は開港を認め、横須賀に開港場を設けた。1853年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1853年(嘉永6)
黒船の来航。幕府は開港を認め、横須賀に開港場を設けた。1853年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1853年(嘉永6)
黒船の来航。幕府は開港を認め、横須賀に開港場を設けた。1853年に開港し、軍艦工廠が完成した。

宿場町の賑わい残す、マリンスポーツの拠点 藤沢市

2025年10月1日発行 | 10月1日発行 | 10月1日発行

3 藤沢市
歴史・文化・観光

1875年(明治8)
幕府が藤沢に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が藤沢に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が藤沢に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が藤沢に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が藤沢に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

大人の休日にも新たな趣味を 湘南だから! マリアアクティビティを楽しもう

2025年10月1日発行 | 10月1日発行 | 10月1日発行

3 マリアアクティビティ
マリンスポーツ・アクティビティ

1875年(明治8)
幕府が湘南に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が湘南に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が湘南に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が湘南に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

1875年(明治8)
幕府が湘南に軍艦工廠を創設し、海軍の中心地として発展した。1875年に開港し、軍艦工廠が完成した。

巻頭特集では、海、山、歴史、グルメ、祭り、工芸などなど、神奈川県のことをもっと知ることができるテーマ特集も豊富に掲載しています。

日本の近代化を牽引した「世界の窓」が神奈川県!

未来を拓いた「港」ストーリー 横浜・川崎

神奈川県は、文明開化の発祥地となった横浜や、首都圏の工業化を牽引した横浜工業地帯がある。これら近代化の舞台の原動力となった場所は、「港」が欠かせない存在だった。

黒船来航! なぜ横浜が開港地?
江戸時代末期の嘉永6年(1853)、マシュー・ペリー率いる黒船艦隊が浦賀に来航した。翌年には日米和親条約が締結され、開港地は横浜と定められた。そして安政5年(1858)に結ばれた日米修好通商条約により、長崎や新潟、兵庫とともに神奈川の開港が定められた。

この神奈川は、東海道の宿場として賑わっていた神奈川川であった。しかし、神奈川は遠海で港に向いていなかったこと、東海道を利する日本人と居留する外国人とのトラブルが懸念された。そこで大井・井原両氏は、神奈川ではなく、当時1500人余の半農半漁の小さな村であった横浜(現在の川崎)に港を造る決断を下したのだ。

幕府は横浜村の住民を元の元町あたりに移住させる。内海を埋め立て、2か所の波止場を造るなど、開港場としての整備を進めた。そして安政6年(1859)、横浜が開港したのである。

近代の横浜の多岐を知るなら 横浜開港資料館
横浜開港資料館は、横浜開港の歴史を伝える。開港当時の資料や、開港当時の様子を知ることができる。開港当時の様子を知ることができる。開港当時の様子を知ることができる。

【横浜発祥の文化あれこれ】
1860年 イン 船場 近代 1871 1872 1873 1876
1860年 イン 船場 近代 1871 1872 1873 1876
1860年 イン 船場 近代 1871 1872 1873 1876
1860年 イン 船場 近代 1871 1872 1873 1876

一人の男が變った港と 最新の物流本頭
横浜港と同様に日本の近代化に大きな役割を果たしたのが、京浜工業地帯の主要港の一つである川崎港だ。現在の川崎港は2000万トン以上の埋立地があるが、そのはじまりは、浅野組という一人の企業家の手にもあった。明治29年(1896)に欧米を巡り、工業の必要性や、港湾施設や港湾運営の重要性を感じた浅野は、東京から横浜にかけての埋立事業を構想。大正2年(1913)に埋立事業を着工させ、埋立地に様々な企業を誘致した。やがて日本の規模と工業地帯を誇るものとなった京浜工業地帯や川崎港は、こうして生まれた。

現在、横浜に10ある本頭の一つ、本頭本頭の大正(新本頭)が建設されている。コンテナ船の大型化に対応した高規格コンテナターミナルを有する最新鋭の物流拠点を目指しており、2028年に完成予定だ。新本頭本頭の岸は、横浜港の水環境や生物に配慮して整備され、埋立内部に微生物や海産物が生態豊かな構造になっている。

神奈川文化と歴史を学ぶなら 神奈川国立歴史民俗博物館
神奈川国立歴史民俗博物館は、神奈川の歴史と文化を学ぶことができる。神奈川の歴史と文化を学ぶことができる。神奈川の歴史と文化を学ぶことができる。

「かながわの名産100選」から紹介!

匠の技が光る 伝統工芸 セレクション

【文化】

自然豊かで、歴史もあり、東海道には人が行き交う神奈川県には、時代ごとに求められる道具や日用品、農産品の技術が育まれてきた。現代に伝わる工芸品を振り返りご紹介。

色とりどりの木材が織りなす芸術 箱根寄木細工

江戸末期から箱根の地域で作られていた箱根寄木細工。異なる色の木を幾何学模様で組み合わせ、加工することで鮮やかな模様の美しい生漆塗品に、組み合わせた木材「種板」をカンナで削ってシート状(ツク)にし、種木の表面に貼って作るのを「貼りの寄木」。種板をそのまま使ったものを「ムク寄木」とよぶ。「ムク寄木」は、製品の厚みがすべて等しくなっているのが特徴だ。寄木とは別の技法として、糸巻を用いた「糸巻寄木」も生まれた。

箱根で発展した寄木にも、さまざまな木材が手に入りやすい自然環境や、多くの職人が行き交う東海道のみやげとしての需要があったりとされている。現在、工場の数は約20人ほどが関わっており、工房見学や水のコースなど独特な体験施設もある。

【体験】箱根シルクミュージムショップ アソシエーション (0249)291312

七転び八起きのお祭り物 相州だるま

平塚市に150年以上伝わる縁起物のだるま。織・染・土山などを表した顔模様が特徴でもある伝統的なないだるまに加え、平安などなど創作だるまも作られている。

【体験】寛井だるま屋 (0249)291041

湘南の色を染めておく 湘南七宝焼

茅ヶ崎の工房で作られる焼き物。磁器を使った技法が特徴で、白い磁器に釉薬をかけて透明感を引きださせている。首飾りやイヤリングから、えびしなど湘南らしい作品まで揃う。

【体験】湘南七宝焼 (0249)291041

お籠りのおもてなし 小田原提灯

籠で練り入れられるほど小さくなるため、籠所・籠籠を履いた東海道で旅人に重宝された独特の提灯。江戸中期の職人「籠師」が考案したと伝わる。

【体験】山崎提灯店 (0249)291041

余韻も響く奇物の香色 小田原芸繕物

戦国時代に北条氏に奨励されては来、小田原では縁起物が豊富に発展。当時は仏具や鉄物、漆箱なども製造された。現在は風鈴・おりんなどの鳴物や、花を飾る花籠が人気。

【体験】小田原工芸館 (0249)291041

800年受け継がれる彫刻と漆の融合 鎌倉彫

鎌倉彫は、陰影のある彫りや漆の深い色調が特徴の彫刻。彫刻の完成後、漆塗りをする。その工程は何回にも及び、漆塗3回ほどをおこなうのが一般的。漆塗を繰り返すことで、その表面で耐久性も確保されている。草花の絵柄が多く用いられ、生活の中で使用する食器や小物にもよく合う。

鎌倉時代に仏教の隆昌と共に栄えた彫刻の芸術品の中に漆が加わり、それが発展したのが鎌倉彫。漆塗りの道具や小物を作ったことから、鎌倉で技術が発展していった。江戸時代に入り茶室が家や商の間に広まるにしたがって、茶入や香合などの茶道具としても珍重されるようになった。明治以降は花菱になった。鎌倉の産品として人も人となり、日常使いの品物が増えた。

【体験】鎌倉彫 鎌倉彫美術館 (0249)291041

鎌倉彫資料館

【体験】鎌倉彫資料館 (0249)291041

地元食材を愛する名店へ

海の幸 福浦漁港 みなと食堂

福浦漁港産の新鮮な魚介類を、地元産の新鮮な野菜や調味料と合わせて、季節ごとの限定メニューをご用意しています。

しらすや 磯越漁港前店

しらすや、磯越漁港前店。新鮮なしらすや、磯越漁港産の新鮮な魚介類を、地元産の新鮮な野菜や調味料と合わせて、季節ごとの限定メニューをご用意しています。

神奈川県産者が置かれたのは何? 神奈川が誇るビールで乾杯

クラフトビールのレストランも Check

クラフトビールの魅力を堪能できるレストランもチェック。新鮮なビールを味わいながら、地元産の新鮮な野菜や調味料と合わせて、季節ごとの限定メニューをご用意しています。

サント・ガレン TAP ROOM

クラフトビールの魅力を堪能できるレストランもチェック。新鮮なビールを味わいながら、地元産の新鮮な野菜や調味料と合わせて、季節ごとの限定メニューをご用意しています。

このほか、かながわ観光親善大使を務める石塚英彦さん、ふじさわ観光親善大使のつるの剛士さん、観光情報サイト「アットヨコハマ」ナビゲーターの小田えりなさんなど、神奈川 LOVE な有名人や、地元メディアのインタビューも多数掲載。神奈川ツウな人たちからの耳寄り情報をキャッチできます！
主な出演有名人・メディアの情報はこちら <https://jtbpublishing.co.jp/topics/CL000722>

■音声で神奈川の魅力を発信！「るるぶ×FMヨコハマ まちといろラジオ」
本書の発行を記念して、神奈川を代表するラジオ局であるFMヨコハマのDJが『るるぶ まちといろ神奈川』を持って県内各地を旅する番組がスタート！初回には神奈川の魅力を知り尽くした編集者もゲストとして登場。みなさんも番組を聴いて、神奈川旅に出かけてみませんか？

- 【番組名】るるぶ×FMヨコハマ まちといろラジオ
- 【出演】DJ 帝さん、川内美月さん
- 【配信本数】全5回 (2025年3月の毎週日曜朝9時に1回ずつ配信)
- 【聴取方法】各Podcast配信プラットフォームでお聴きいただけます。



■限定ノベルティ付き！書店店頭キャンペーンも開催

発売日である3月14日（金）と翌15日（土）は、横浜市内の書店で店頭キャンペーンを開催。本書をご購入いただいた方に先着順で限定ノベルティをプレゼントします。ぜひお越しください！

【店頭キャンペーン開催店舗】

3/14（金） 11：00－18：00 有隣堂横浜西口店

3/14（金） 11：00－17：00 八重洲ブックセンター京急上大岡店

3/15（土） 11：00－17：00 有隣堂伊勢佐木町本店 ※悪天候中止

※ノベルティの内容は店舗により異なります。また、数に限りがございます。

今後も SNS での感想投稿企画など、神奈川県の魅力発信につながるキャンペーンも実施予定です。ご期待ください！

■書誌情報

【書名】『るるぶ まちといろ 神奈川』

【定価】 2,420 円（10%税込）

【仕様】 本誌 464 ページ／別冊 MAP48 ページ／電子書籍・Google マイマップ付き

【発売日】 2025 年 3 月 14 日（金）

【発行】 株式会社 JTB パブリッシング

Amazon <https://www.amazon.co.jp/dp/4533164560/>

■会社概要

会社名：株式会社 JTB パブリッシング

所在地：東京都江東区豊洲 5-6-36 豊洲プライムスクエア 11 階

代表者：代表取締役 社長執行役員 盛崎宏行

コーポレートサイト：<https://jtbpublishing.co.jp/>

<お問い合わせ先>
JTBパブリッシング ブランド戦略室 メール：pr-team@rurubu.ne.jp